

# 一中の桜並木

令和7年9月24日

## 「教育目標」



考える人  
思いやりのある人  
助け合う人  
成しとげる人



-CHP

連雀学園三鷹市立第一中学校 校長 宮城 洋之

## 修学旅行に思う

校長 宮城 洋之

3年生の修学旅行を17日(水)~19日(金)の日程で実施しました。9月中旬の奈良・京都はまだ蒸し暑く、生徒の体調が心配されましたが、病院にかかるような体調不良や怪我はなく、安全に楽しく3日間を過ごすことができました。雨予報がありながらも行動中に雨に降られる場面はほとんどなく、天候に恵まれたことも大きかったと思います。中学校3年間で最後の宿泊行事。3年生にとって思い出の1ページになったのではないのでしょうか。

さて、「修学旅行」というと保護者や地域の皆さんにも小・中・高校生時代の思い出があるのでは？ 同年の仲間と集団で寝食・行動を共にするという経験には家族旅行や個人旅行とは違った意味があります。

☆ ☆ ☆

そもそも、この「修学旅行」、いつから始まったのかご存じでしょうか。実は修学旅行のルーツは筑波大学(旧・東京師範学校)にあるとされています。しかも、その歴史は明治にまでさかのぼります。

明治19(1886)年に東京師範学校は千葉県銚子方面を目的地とする「長途遠足」を実施しました。その日数はなんと11泊12日! しかも移動手段は全て「徒歩」というなかなか過酷なものでした。なぜこのような行事が生まれたのかというと、明治政府の方針である「富国強兵」に沿って企画されたから--ということのようです。つまり、軍事訓練としての性格があったわけですね。

ただ、訓練のためののみ実施されることに当時の教員らが異を唱え、東京師範学校では、途中で鉱物や貝類の観察・採集、文化財や遺跡の見学といった「学術研究」の要素を取り入れて実施することにしました。これが現在まで続く修学旅行の始まりです。

その後、修学旅行は全国的に広がり、多くの学校で実施されるようになりますが、昭和に入り時代が戦争へと向かっていく中で国からは修学旅行を制限する通知が出されます。1940年のことでした。都内では東京学芸大学附属世田谷小学校(旧・東京第一師範学校附属国民学校)が1943年に実施したのを最後に修学旅行は消えました。

ところが戦後を迎えると、その翌年(1946年)には早くも各地で修学旅行が復活します。終戦が1945年8月だったことを考えると、その直後から修学旅行再開に向けた計画が進められたものと考えられます。戦後の食糧不足のため旅行先にお米を持参する必要があったり、当然のことながら全員が参加できるわけでもなかったりしたようですが、それでも、こんなに早く再開されるほど修学旅行は大切な行事と考えられていたということなのでしょう。

戦後の復興とともに修学旅行の実施校は増え、1958年にはカリキュラムの基準である学習指導要領にも正式に位置付けられました。現在の中学校学習指導要領では修学旅行は「旅行・集団宿泊の行事」とされており、その目的は「平素と異なる生活環境にあつて、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、よりよい人間関係を築くなどの集団生活の在り方や公衆道徳などについての体験を積むことができるようにすること」とされています。ルーツとなった東京師範学校の掲げた「学術研究」という色合いはだいぶ薄らいだ印象ですが、それでも2泊3日を通じて、教科書やネットでしか知らなかった様々な伝統・文化・環境に直接触れる体験をしたり、教室ではできない多様な学びが行われたりすることには他では得られない意義があると考えます。

☆ ☆ ☆

今年の修学旅行の2日目は丸一日をかけた京都市内の班別行動でした。残暑や、インバウンドの影響による想像以上の混雑などにより計画の調整や修正を余儀なくされた班も多かったことと思いますが、それでも最後の班が宿舎に戻ってきたのは最終到着予定時刻からわずか13分の遅れでした。長い時間をかけた計画立案から目的達成まで、いわば「課題解決」の学習を十分な精度で実施できたと言っても良いと思います。これから、義務教育最後の半年間と本格的な受験期を迎える3年生にとって、修学旅行が単なる思い出を超えた価値ある記憶として刻まれることを願っています。

(参考:公益財団法人日本修学旅行協会ホームページ <https://jstb.or.jp>、公益財団法人全国修学旅行研究協会ホームページ <https://shugakuryoko.com/>)



北野天満宮にて